

2014年10月14日

**AGCの軽量ガラスとFRPを使用したメガソーラーが本格稼働
～北九州市最大のメガソーラーの耐久性と施工性を向上～** 旭硝子株式会社

AGC（旭硝子株式会社、本社：東京、社長：石村和彦）は、本日全面運用を開始した「エネ・シードひびき太陽光発電所」で、AGCの化学強化特殊ガラス「Leoflex[®]」と当社子会社のAGCマテックス株式会社のFRP（ガラス繊維強化プラスチック）素材「プラアロイ[®]」が採用されたことをお知らせします。

同発電所は、エネ・シードひびき株式会社が運営し、発電規模20.5メガワットの北九州市最大のメガソーラーです。三菱電機株式会社が開発した両面ガラス軽量ソーラーパネルには、軽くて強い「Leoflex」が両面に使用され、架台には軽くて錆びない「プラアロイ」が使用されています。いずれも軽さと高い耐久性が特長であり、メガソーラーの長寿命化に貢献するだけでなく、施工時の作業負荷を大きく軽減しました。

【両面ガラス軽量ソーラーパネル】

三菱電機株式会社が開発した両面ガラス軽量パネルは、耐湿性に優れるガラスを両面に使用することで、長期間にわたりパネルの劣化を抑え信頼性を高めています。さらに、ガラスを薄くて強い「Leoflex」にしたことで、通常の片面ガラスのパネルと比べて約2割の軽量化を実現しました。

【FRP架台】

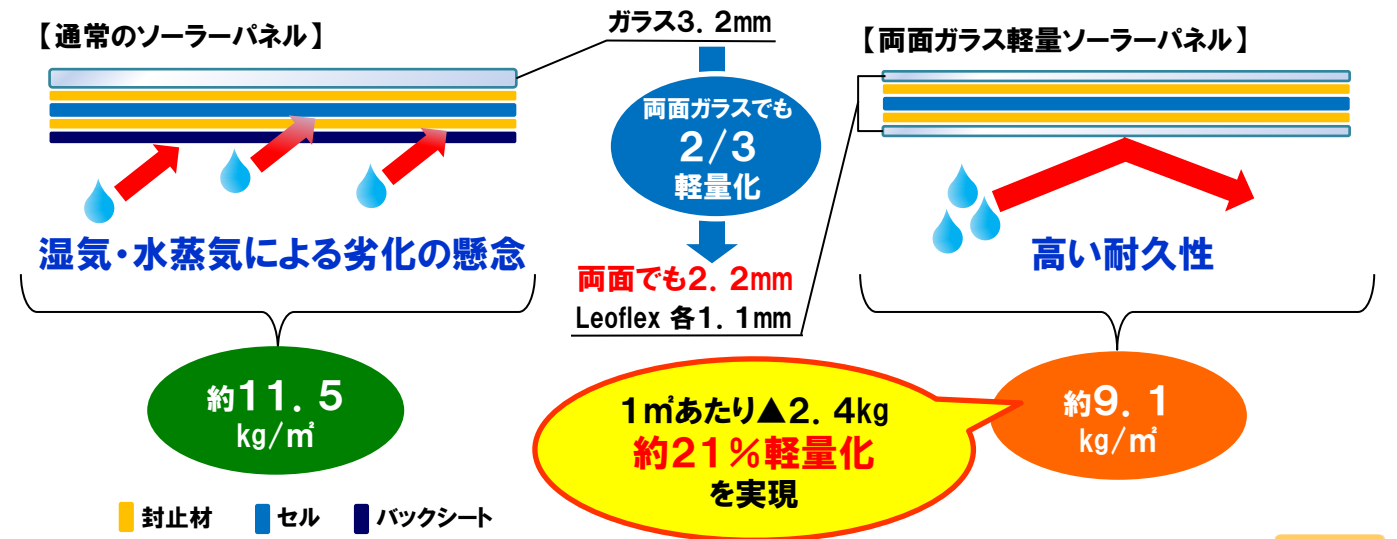
架台は、軽くて錆びない「プラアロイ」を用い、厳しい環境条件においても高い耐久性が期待されます。また、架台の一部には、株式会社NTTファシリティーズと共同開発した施工性の高い新設計の架台を採用し、施工時の作業効率を大きく改善しました。なお、この新設計の架台は2014年度グッドデザイン賞を受賞しました。

エネ・シードひびき太陽光発電所は、沿岸部に立地するため、塩害によるソーラーパネルの劣化や架台の腐食などが懸念されていました。このような環境下でも、軽量ガラスやFRPの特長を活かした製品を採用することで、それらの課題を解決し、メガソーラーの耐久性と施工性が向上しています。

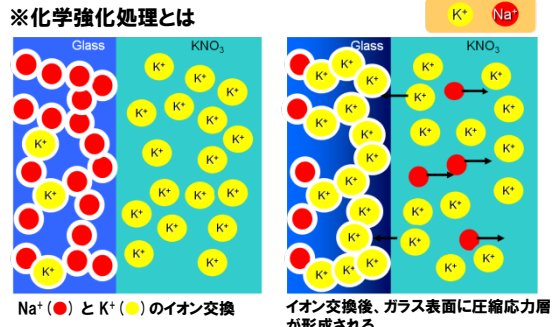
AGCは、経営方針*Grow Beyond*の下、「環境・エネルギー問題に技術力で貢献」を成長戦略のひとつに掲げています。今後も、お客様に最適なソリューションを提供することで、成長基盤の強化・定着を図ります。

◎本件に関するお問い合わせ先：**AGC** 旭硝子株広報・IR室長 小林 純一
(担当：小田原 TEL：03-3218-5603、E-mail：info-pr@agc.com)

- ✓耐湿性に優れるガラスを両面に使い、長期間にわたりパネルの劣化を抑え、信頼性を向上
- ✓ガラスが薄くて強い「Leoflex®」のため、通常品と比べ約21%軽量化し、施工性を改善



AGC 旭硝子の「Leoflex®」は、化学強化処理※によって、強度を向上させた、軽くて強いガラスです。ソーラーパネルなどの大幅な軽量化を可能にします。

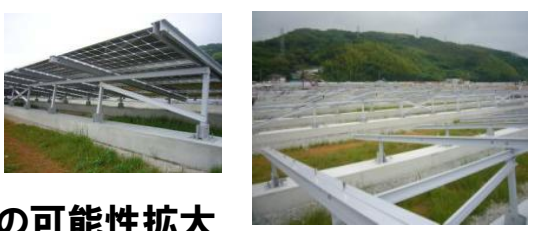


FRP(ガラス繊維強化プラスチック) 架台

全ての架台に **AGCマテックス株式会社**のFRP素材「**プラアロイ®**」を使用

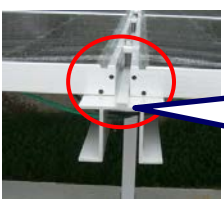
〈プラアロイの特長〉

- ✓ 軽くて強い
 - ✓ 腐食に強く錆びない
 - ✓ 形状自由度が高い
- ◆ 施工性向上
 - ◆ 耐久性向上
 - ◆ 新工法実現
- ▶ **メガソーラー設置の可能性拡大**

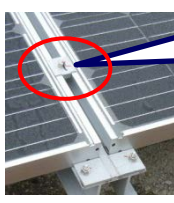


GOOD DESIGN AWARD 2014

さらに、株式会社NTTファシリティーズと共同で開発した新設計の**スライド式架台**が、耐久性と施工性の高さを評価され、**2014年度グッドデザイン賞**を受賞！



垂木の凸部によって、パネルの位置決めを容易にし、パネルをスライドさせて設置可能に



パネル上面からボルトで固定できるため、施工時の作業効率が向上